

札幌都心部観光バス駐車対策実証実験結果概要

(平成14年7月～16年3月)

背景

- ・札幌市において、大通公園周辺で観光客が下車した後も移動せず、乗車予定時刻まで路上待機している観光バスが多く見受けられ、こうした観光バスの客待ち路上駐車が観光シーズンや冬季における都心の交通渋滞に拍車をかける1つの要因となっている。
- ・札幌市として、平成10年10月より観光バスの待機場を設置しているが、都心部から遠く(片道30分)、移動に時間を要するため、短時間待機の場合は利用が不可能である。
- ・早朝にホテル前で観光客の乗車を待つ観光バスが路上待機し、ラッシュ時の交通渋滞を助長している。

実験の概要

(社)北海道バス協会と札幌市が協働して都心部に観光バスの臨時待機場を設けるとともに、実験を円滑に進めるため北海道警察本部等の関係機関からなる連絡会を設け、実験内容の検討、利用促進キャンペーン等を行う。

実験場所: 札幌市中央区北1条西9丁目
実験期間: 平成14年7月～平成16年3月
運営時間: 7:00～19:00(平成15年度)
(平成14年度 7:00～17:00)
規模: 夏 - 約15台、冬 - 約10台
運営主体: (社)北海道バス協会



実験の効果

- ・都心部待機場の利用台数の増加が著しく、平成15年度の利用台数は平成14年度の1.4倍に増加
- ・札幌市内の主な観光地点テレビ塔前及び大通での路上駐車の台数及び駐車時間は、実験前と平成14、15年度を比較すると減少。

実験後の状況

- ・平成16年度は(社)北海道バス協会と札幌市が協働実施し、平成17年度からは(社)北海道バス協会が本格運用をしている。平成16年度の利用台数は、10,904台で対前年度比111%と増加している。(平成15年度利用台数9,821台)
- また、平成16年度の運営時間(8:30～18:00)が前年度よりも2時間30分短縮されていることを勘案すると数字以上の効果が表れており、着実に都心部待機場として認識され、交通渋滞の緩和に向け今後も一層の利用が見込まれる
- ・ちなみに、平成17年4月期の利用台数は、650台と前年同月比の117%と快調な滑り出しを見せている。